

最新歯科技工士教本

顎口腔機能学

全国歯科技工士教育協議会 編集

*Stomatognathic
Function Science*

1

顎口腔系の形態

到達目標

- ① 歯列と咬合の関係を説明できる.
- ② 顎顔面の筋の形態的特徴と機能を説明できる.
- ③ 顎関節の構造と機能を説明できる.
- ④ 顎口腔の神経支配を概説できる.

顎口腔系とは、摂食、咀嚼、嚥下、呼吸および発音に関係する組織と器官の総称をいう。顎口腔系は、歯・歯周組織・上下顎歯列による咬合、上顎骨・下顎骨・舌骨・顎関節とこれらに付着する筋、口唇・頬などの軟組織、唾液腺およびこれらの器官に関与する神経系で構成されている。

1 歯と歯列

歯は、歯根膜を介して上顎骨と下顎骨に連続的に植立し、歯列をなす（図 1-1）。上顎歯列と下顎歯列があるが、乳歯列（最大 20 歯の乳歯）、永久歯列（智歯を含めると最大 32 歯）、混合歯列（乳歯と永久歯が混在）という表現もある。

歯列は、二次元的に観察すると彎曲しており（咬合彎曲）、矢状面ではスピー（Spee）の彎曲、前頭面ではウィルソン（Wilson）の彎曲がある。また、三次元的に観察すると球面をなし、モンソン（Monson）の球面とよばれる。



上顎歯列



下顎歯列

図 1-1 上顎歯列と下顎歯列

2 顎口腔系を構成する骨

頭蓋や上顎部を構成する骨と下顎部を構成する骨に大別される。頭蓋・上顎部は、側頭骨、蝶形骨、上顎骨、口蓋骨、下顎部は、下顎骨と舌骨でそれぞれ構成される(図 1-6)。

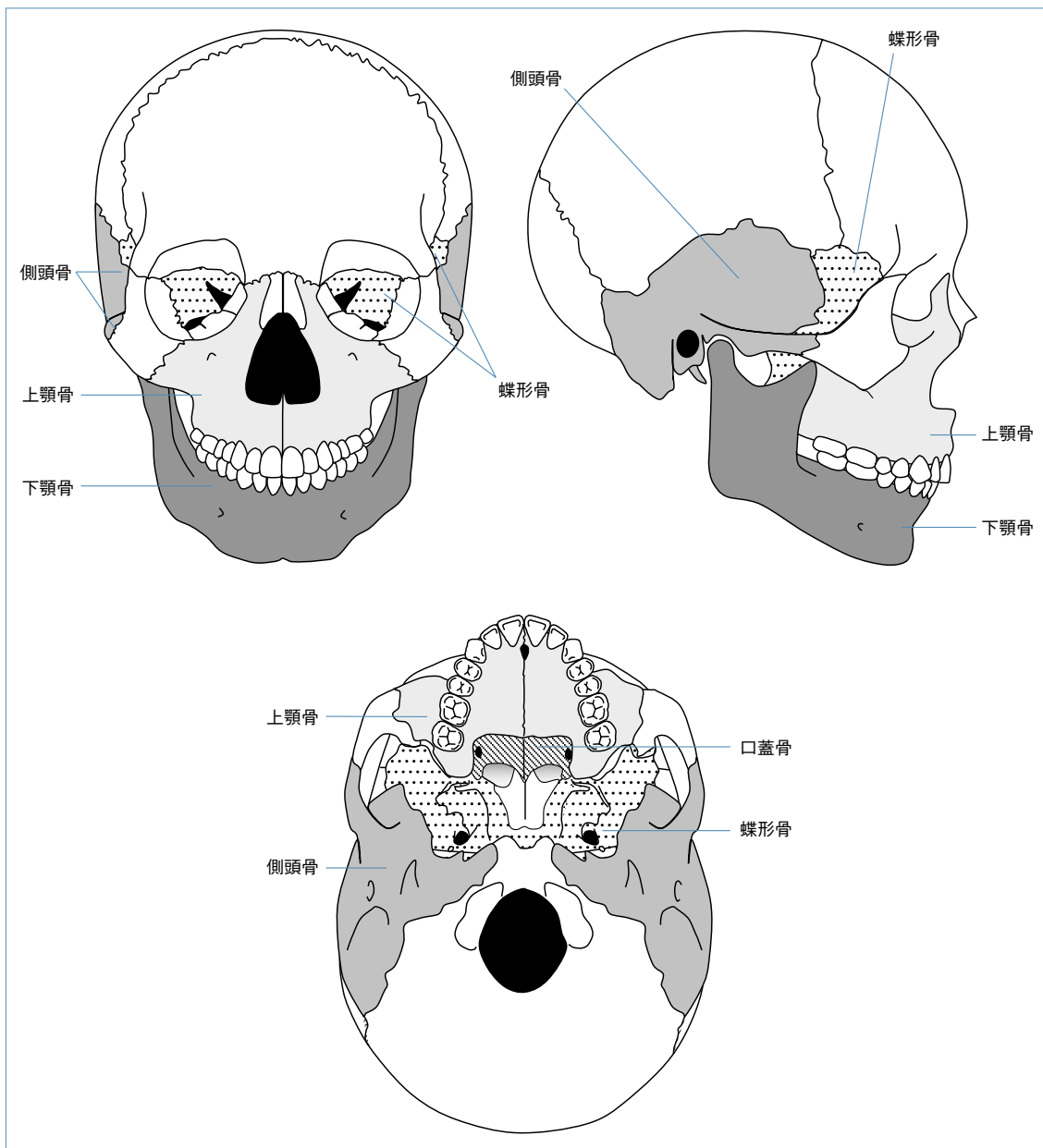


図 1-6 顎口腔系を構成する骨

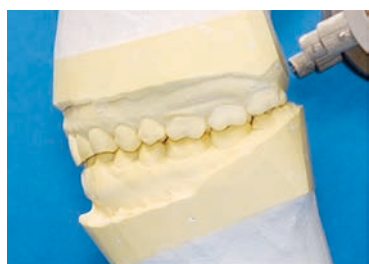


図 7-4 上下顎模型を咬頭嵌合位で咬合器に装着する



図 7-5 咬合挙上量（最後方臼歯上下顎咬合面間で約 1 mm）を決定する



図 7-6 外形線を記入する



図 7-7 アンダーカット部のブロックアウトを行う



図 7-8 模型にパラフィンワックスを圧接し，外形線に沿ってトリミングする



図 7-9 パラフィンワックスを築盛し，フラットテーブルを形成する



図 7-10 フラットテーブルの表面を一層軟化してから咬合させる



図 7-11, 12 対合歯列による圧痕をとり，フラットテーブルを再形成する



図 7-13, 14, 15 対合歯列と点接触になるように余剰なワックスを削除する

